

和裁

伝統技術・技能の継承のため

紳士服製造

現在の実技試験は基準が低すぎる。検定が始まった昭和 38 年当時の基準程度にした方がよい。

家具製作

若年技能者のプロとしての意識向上させる。本人の技術目標になっている。特に技能五輪大会などは、若者のあこがれの目標になっている。

個人のモチベーションの向上。会社として従業員に目標を与えることができる。

帆布製品製造

会員名簿に有資格者名を掲載し、会員の士気高揚の一環として活用。

水産練り製品製造

技能検定の取得による製造理論及び製造技術の習得により、商品開発力の向上等が図られることから、企業業績の向上につながる。

菓子製造

技能者の社会的地位向上に役立っている

工業包装

輸出が多いので、国際的な標準化が必要。そのための基本的な人材である。

畳製作

消費者にとって畳店の質的評価の目安となっている。

義肢・装具製作

ユーザーにとっての便益。義肢及び装具利用者にとって、臨時のメンテナンスや特別注文等に対しても対応できる技術・技能を持っているということ。

社員の昇級試験として利用している企業があります。技能検定の資格保持の必要性が毎年減少してきている。1 年過程の義肢装具士の養成校ができれば、技能検定の有益性は高まる。

寝具製作

消費者からの目線を考えてみると、寝具技能士が作る「綿ふとん」に代わり、現在普及している工場生産の寝具は、外見的には似ているが、日本固有の寝具としての機能は失われてしまい、使い心地の良い寝具を手に入れることができなくなる点も見逃すことはできません。中国へ進出して「ふとん」を製造・輸出している日本企業も人件費抑制のためだけに寝心地の悪い不必要の「ふとん」を製造しているのが現状です。寝具技能士の検定実施の意義はご存じのことと思いますが、検定が次世代の技能者にとって大きな目標となっていることを忘れないで下さい。

複写機組立て

製造業の原点である「整理整頓」、「清掃」、「躰」等基本的な活動に有益性が高い。

酒造

杜氏という名称が消費者に与えるイメージがよいということから、酒造経験がないあるいは短いにもかかわらず自称「杜氏」と名乗る例が見られる。その弊害をなくすためにも技能検定は非常に有効な制度である。

みそ製造

社会的にみそ製造を伝える。地域のキーマンを育成する。

ロープ加工

輸入ロープ加工品との差別化。ユーザーが製品の安全性を確認する基準になる。

溶射

溶射資格に関するオフィシャルな資格はこの「技能検定」以外にはなくその有益性は極めて高いと考えます。

技能検定合格者(技能士)数の多寡が、その企業の技能レベルの判断基準となっている。

ガラス製品製造

業界における技能に関する用語の統一
金属研磨仕上げ
顧客に対する企業イメージの向上

2(1)b 製造型 製品生産型 機械化型

プラスチック成形

1 級は現場の作業管理監督者レベルを対象としており、一方 2 級は現場でのリーダーレベルである。したがって、2 級での業界にとっての評価基準①～③は、①ランク下がると思われます。受検者、企業にとってはおおむね 1 級と同レベル。3 級は、初心者ないし、まだ業界に就業していない方を対象としていますから、3 級技能検定への評価は、そもそも上記基準とは異なると思います。有益性としては、強いて言えば⑧(業界登竜門クリアからくるモチベーション up)と思います、.

品質保証の裏付け。顧客へのアピール(掲示)

半導体製品製造

技能者のモチベーションの向上

ニット製品製造

企業が海外に工場を出す場合、技能士の資格が役立つ。

金属溶解

本件の問とは直接関係ありませんが、実情と要望を記載させていただきます。昭和の時代は受検者数も多く、企業内にも有資格者が多数いた。しかし、それらの人が定年を迎え、各社有資格が年々減少しているのが実情である。現在、若い従業員のニーズ(受験希望)はあるのだが、一番のネックとなっているのが実技試験会場の確保である。設備(溶解炉)の大型化が進み、実技試験に適した設備(溶解炉)が確保できず、受検したくても受検できないのが現状である。実技試験の見直し(簡素化)等を考慮していただけると幸いである。当業界で製造するアルミ合金地金は、その 8 割程度が自動車用部品(エンジン等)に使用されており、我が国の主幹産業である自動車産業に欠かせない素材である。自動車メーカー自身も溶解炉を保有して溶解しており、また最近では自動車メーカーが当業界に進出(子会社を設立)して、直接アルミ合金地金を製造している。したがって、「金属溶解職種」はニーズが高いと言える。

当業界(鉄鋼業)においては、各社各様の技術・技能を保有しているが、技能検定により「業界」としての伝承すべき技術・技能が明確になる。

機械木工

木材加工機械の特性をよく理解し、効率的かつ安全に使用してもらうために、使用者の技量向上を図るための唯一の検定制度である。ドイツのようなマイスター制度がない現状では不可欠の制度で、その資格が認められるような環境も必要と思います。

2(2)a 製造型 生産支援型 整備型

油圧装置調整

社員教育や技能評価による重要案件への従事等に有益性が高い。

切削工具研削

企業にとっての技能伝承と知識技能レベルの均質化。受検者の学習機会の創出。ユーザーにとって業者選定の指標となる。

当業界は刃物メーカーの団体ですが、この技能検定の「超硬刃物研磨」に関しては、特にメーカーから出荷され、使用されて、その後新品時の切れ味を維持していくための「再研磨」時に特に技能が必要なことからスタートしております。再研磨を業としている方にとっては、社会的地位の確立にも大きな意義を持っていると言えます。また産業の根っこを支えているとも言えるでしょう。

縫製機械整備

世界市場における日本の縫製機械産業は、品質・性能・品揃え及び産業分野の中でリーダー的役割を果たしてきた。縫製機械整備技能士の国家資格は、製品を使う国内外の顧客に対し製品の